

5番(中村 充男君) つい先日まで暑いと思っておりまして、秋がなく、もう人の心の温かさのわかる寒い冬がやってまいりました。今年もあとわずかでございますが、私はあちこち歩いておりまして、中村充男という名前は結構覚えていただいているのですが、この顔が中村充男ということをご存じない方が、町内でも結構いらっしゃる。つい先日も、「あんたどこや」と聞かれまして、「六把野です」と言うと、「たしか20年ほど前に町長選挙におだって出た中村充男っていな、知っているか」と言われて、「ええ、そのおだって町長選挙に出た、町長になり損ないの中村充男、私です」と言うと、「えっ、おまえが中村充男か」と。どうぞこの機会に、この顔と中村充男が、こういう者だということを、名前と顔をセットでひとつ覚えていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは通告どおり、一般質問をさせていただきたいのですが、私、今年3月、4月と急に目が見えなくなりまして、入院をし、手術を受けました。町長、副町長をはじめ、いろんな方にご心配をおかけいたしました。ありがとうございました。1回目の手術が失敗して、その失敗は先生ではなくて、私が動くなというのに3時間、4時間が辛抱できずに動いたために失敗した。2回目の手術を受けた。その入院中にまた友達が病院にやってきてくれまして、「おまえもいよいよめくらか」と、こういうふうなことを言われた。めくらとかつんぼとかいう言葉は使ってはいけない、こういうことを聞いておるのですが、身をもって、ずしっと胸に刺さった次第でございます。

今回も通告いたしました紙に、障がい児の通学介助についてということで、障害の害を災害の害と書きました。そしたら私の最も信頼する方が、害はひらがなで書いたらどうかと。障がい者に対する差別用語だと、こういう通告でございますが、障がい者と言わずに障がいのある方と、こういうふうに言ったらどうやということでもございましたので、おわびして訂正を、まず最初にさせていただきたいと思えます。

しかし私、めくらという言葉はやはり使わない方がいいと思うんですが、以前、同僚議員が桑名員弁広域の行政の中で、桑名の職員が何百万円というお金を横領した。

その時に佐藤町長が監査役をやっておられて、町長、めくら判を押したのと違うかと、こういう質問をされた時に、内容はともかくとしまして、めくら判という言葉も使ってはいけない、おわびして訂正せよと、こういうことで一件落ち着いたわけでございます。

めくら判という言葉は、書類も見なくて、ボンボン判を押すことをめくら判を押すと言ってるわけでございますが、これも差別用語で使ってはいかんということになると、教育界のトップとして教育長、これにかわるわかりやすい言葉、どういうふうに使ったらいいか、ひとつ教えていただきたいと思います。

そして2つ目は、四日市の西日野というところに養護学校というのがございました。その養護学校という言葉も使ってはいけません。今は西日野にし支援学校、レインボーのにしでございますけど、そう言えば役場のところでそのバスに出会いましたけれども、特別支援学校とか、バスの方向幕もそのように変更されました。いつの間に、どなたがどのように変えていったのかわかりませんが、これも差別用語だと言われるんです。

めくらやつんぼやというようなことを言ったらいけないかもしれませんが、あほかばかも言ったらいけません。そうすると映画でやっていた「釣りバカ日記」というのはどうなるんやろう。皆さん、今、臨時国会を見ても、予算委員会をテレビで見ても、人の言葉の揚げ足ばかり取って中身の無い論争をしている。まことに張り合いがない。本当に目の見えない人、耳の聞こえない人、足が使えない人、そうした知的障がいのある方々を、どうしたらその人たちが本当に喜んで介護を受けられるか。何も言葉を変えて養護学校を支援学校にしよう、そんな会議をしているのなら、こういう人たちがどうしたら喜んでくれるかという内容の検討をしてもらいたい。そしてそういった施設に預けている親御さんが、あそこへ預けておけば安心しておられる、ホッとするという内容、システムはどういうことかということの検討をしてもらいたい。

2カ月か3カ月前に名古屋で、82歳の父親が重度の身体障がいと知的障がいをお持ちの娘さんを殺してしまった。その裁判で、私は自分の娘が憎くて殺したのではないと。自分も体がだんだんときかなくなって、この子がかawaiiそうでならないので殺したと、こういう証言をしておりましたが、殺すことのほうがかawaiiそうではないかと。これは行政に携わっている人たち、政治家たちが、どうぞうちの娘をよろしく願いますと、安心して預けていけるところがないから殺してしまったのであって、中身をもっともっと検討してもらいたい。私はそう思うのです。

今、支援学校に行くバス、桑名のマイカルあたりから出まして、点々と生徒を拾って西日野へ行くわけですが、この中に3人のお世話をいただく方が乗っておられる。そして1人は介護認定を受けた人、あと2人は補助の人。ところがあのバスの中で何が起きているか。想像もつかない。ゲボゲボ吐く子、おしっこ、うんこをちびる子、そのうんちをつけにいく子、それをとめに行く介護をしている人、それは認定を受けた人しかできない。あとの人は何もしない。できない。そんな状態です。半分ボランティアでやっておられる。

こういう介護をしていただいている、介助をしていただいている方々が自信と誇りを持って笑顔で接してもらえるようにするにはどうしたらいいかということを、現場主義で、一遍このバスに教育長にも乗っていただきたい。

こういう養護学校という支援学校が、再来年の4月に桑名看護学校の跡にできると聞いておりますけれども、まだそれでも1年以上、西日野までずっと点々とそう

という方が待っておられて乗っていく、また帰りに送っていかれる。こういう実態を行政に携わっている方が把握して、そういった子どもたちが喜んで受けられるようなこと、そういうところへ安心して預けられるようなシステム、そしてそういうところで働く人たちが誇りを持って働けるような、お世話できるようなシステムを即座につくってほしいがために、私は教育長にバスの中身を知っているかどうか、乗ったことがあるかどうか、どうした対応をしていたかということをお伺いしたいと思います。ご所見をお願いします。

議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） 中村議員のご質問にお答えをします。

ただ、私ども通告を受けたことと答弁で書いたことが少し違いますので、また再質問等をお受けしながら論議を深めていきたいなと思っております。

まずめぐら判のことですけれども、めぐら判とはいい加減に押す判子という形で私どもは言っております。

西日野にし学園に行っているバスは、基本的には県立学校の分野でありまして、私どもの範疇といたしましては、町にみえる特別支援学級のお子さんたち、その小学校、中学校に通っているお子さんたちに対しての支援というのを中心にやっております。

私は西日野養護学校へは行ったことがあります。見学もさせていただきました。ただ、バスに乗ってということはまだありません。それは西日野養護学校、県立学校がある面、責任を持ってやっていたらいい範疇であるからであります。私の範疇は東員町の小学校、中学校、幼稚園の子どもたちの特別支援学級対象のお子さんや、そういうお子さんのための教育をどう施していくかということにありますので、その分野で私は全力を上げてさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 中村議員。

5番（中村 充男君） 県ことはよくわかるんですが、バスでお世話いただいている方にも東員町の方が結構いらっしゃるんですね。そういう方にも意見を聞いていただいて、こういった福祉というのは人間の幸福にかかわる重大な課題でございますので、範疇どうのこうのもあるかもしれませんが、この人たちのために、町でもそういう方もいらっしゃるし、私も今までにどうしても中学校から学校へ行けないということで、愛知県の春日井のコロニーに直接かかわっていきまして、県外の方はだめだということでしたが、国から補助を受けていないかと私の理屈をもって、そこへ入れていただくこともありまして、そのルートで2～3人行かれたと思うんです。それも、そこへ預けておくと安心であるし、1年そこで過ごして帰ってくると、自分のことは自分でできるようになるそうです。

福祉というのは自分が受けるためのことを思って考えるんですが、福祉と

いうのは、受けるより、福祉をする側にいた方がずっといいのです。そういう観点も考えていただいて、そして特に福祉は幸福につながるのだということもお考えいただいて、どうぞひとつ本来の福祉の意味を蘇生させていただくように努力をしていただきたいと思います。

次に、通告の後で出てきた問題でございますが、先般、神田の保育園・幼稚園の送り迎え、保育園の送り迎えですが、父兄が子どもを迎えに来て、車を置いて子どもを連れにいつの間にかばんがなくなると。車にキーをかけておかないといかんやろうと言いましたら、キーもかけたけども、ガラスを割って取られたということです。

先ほど大崎議員がおっしゃっておられたような、町は安心・安全のまちと言っておりますが、今まで学校の先生の駐車場も荒らされた。車上ねらいが結構多い。神田の場合には、周りにもアパートがたくさんできまして、アパートの影に隠れていて、今というようなときにやる場合もあって、やられたわけです。

ひとつ各保育園やそういうところ、防犯カメラを早速設置するとか、安心・安全のまちづくりで、5カ年計画でも、きれいごとはたくさん並べるけど、じゃあ安心・安全のためには何をやるかという中身のことが何も無い。国語の時間ではないですから、言葉を並べるだけはいかんと思いますので、神田保育園で起きたこと、ご承知かどうか。そして対策を練っていただいておりますかどうか、ご答弁をお願いします。

議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） 神田保育園であったことに対しては十分認識をしております。起きた時にすぐ連絡を受けまして、それぞれの保育園等にメール等を配信し、おたより等も配信し、注意喚起をしております。私どもができたのはそこまでであります。注意喚起です。繰り返し注意喚起をするということが、今、私どもはできます。

ただ、カメラをつけるとか何かは今のところ考えておりませんが、それぞれの方々に、職員に対しても、注意喚起をするという方法しかないのが残念なところでもありますけれども、そこで気をつけていただきたいと思います。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 中村議員。

5番（中村 充男君） ありがとうございます。

通告外と言いますが、障がいのある方に対する差別用語と、その人たちの介護や介助をしていただく方々の実態とその対応についてでございますので、町内でもそうしたことに力を、ボランティア半分でやっておられる方がおられるので、その方々に行政として目を見開いていただきたいと思いますということを切にお願いをいたしまして、2つ目でございますが、先般、今定例会の冒頭に町長ご勇退をなさるとい

うことをおっしゃいまして、長きにわたる行政、大変ご苦労さんでございました。

しかし私、今まで既設の諸施設といいますか、ここに書かせていただいたのは笹尾中央の交番跡とかいろんな施設、そのままになっているところがあると。私は反対しておりましたが、笹尾西保育園・幼稚園を壊してしまわずに、西1丁目、2丁目あたりの自治会が資源ごみを回収する場所に、そしてまた子どもたちが学校、学童保育といいますか、あそこへ帰ってくると。少し直してあそこを使っていただくと、異世代交流ができて、子どもたちにお年寄り元気をもらう。お年寄りから子どもたちは奉仕の心を学んだり、いろんな知識や知恵を習得できる場所にできると思っておりましたが、いつの間にか壊されてしまって更地になってしまいました。今さらこんなことを言っても仕方ないんですが、どうしようと思って更地にされたのか、町長にお伺いしたいと思います。

それからラッキーマートの前に、笹尾西2丁目かと思うんですが、集会所がございます。その横にみどり文庫と書いた、またよく似た建物がありまして、そこに小さな看板で「いずみ分所」と書いてある。ここ、いつのぞかせていただいても、タオルが10枚ばかり干してある。使っている形跡はない。いずみさんというのは、とういんアーチもでき、立派なものができるけども、あちこち、いずみいずみで、本当に森と泉になってしまいそうでございますけども、このところを、今もし何か作業で使ってみえるのなら、交番にああいう施設を移動して、笹尾西2丁目の集会所にもう少し広い場所を、お年寄りが集まったり、三味線をひいたり、歌ったりしてみえますので、狭いところではなくて、あそこを有効に使うように、新しくお金を使って建ててくれとは言っていないです。有効に活用をしていただきたいと思いますので、その点について町長はどのようにお考えか、お教え願いたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） 中村議員の既設の諸施設の利用についてのご質問に、お答えをさせていただきます。

本町の空き施設や跡地などの活用につきましては、これまでもご質問をいただいております。私どもも、そのご意見等を参考にしながら、その後、さまざまな研究や検討を重ね、各種団体等と調整しながら、できるものから順次、利活用を図ってきたところでございます。

まず、空き施設の活用から申し上げますと、旧プラムチャンネル局舎は、現在、文化協会や松の会の事務所として、また、朗読ひばりの会やはつねの会などのボランティア団体にもご利用をいただき、そして、図書館の閉架書庫にも利用をいたしておるところでございます。

ガラス温室につきましても、花卉クラブをはじめ、園芸教室や朝市の開催をさせていただきます。

稲部と三和の駐在所は学童保育の施設として、また、神田駐在所につきましては改修も終え、今月からシルバー人材センターの事務所としてお入りいただく予定となっております。

ご質問にもありましたように、旧笹尾交番につきましては、現在女性消防団の詰所と笹尾の青少年育成町民会議のパトロールの拠点として、お使いをいただいておりますが、これに隣接して消防車庫やコミュニティーセンター、連絡所などの公共施設が集まっております。

これらの施設は、耐震化や駐車場の問題、そして何よりも、現在訪れつつあります「笹尾地区の高齢化の問題」がありますことから、本年の8月でございますけど、職員によるプロジェクトチーム（PT）を編成しまして、笹尾連絡所の総合窓口化に向けまして、業務の拡大と付近の公共施設の一体的な整備について、調査・検討をいたしております。すなわち端的に申し上げますと、将来、支所化に向けていきたいということでございます。

いろいろ東員町も高齢化の時代に入ってきております。特に笹尾・城山が急速に高齢化の時代を迎えておりますので、笹尾・城山地区に、現在は連絡所でございますけど、支所化に向けて対応していきたいということで検討をさせております。

次に跡地利用につきましては、今年度、東員保育園を住宅用地として民間へ売却をいたしましたし、大木住宅跡地につきましても、今後売却の方向で準備を進めております。

また、旧笹尾第一保育園につきましては、先般解体工事も終わりましたことから、高齢者の方が利用できるような福祉施設の方向で検討してまいったところでございます。

いずれにいたしましても、空き施設や跡地の活用につきましては、場所の広さとか位置の問題、そして利用団体等との調整もありますことから、なかなか一朝一夕に、すべて解決できるものではございません。今後も皆さんと議論をしながら、住民の皆様が一番使いやすい形で、順次有効活用を図ってまいりたいと考えております。

また、幼稚園の東の集会所とかいずみさんに使っていただいております建物がございます。集会所は笹尾西2丁目の方の集会所でございますし、いずみ作業所の今使っていただいているのは、毎日使ってみえないと思いますけど、週に何回か使っておるということで貸しておるというのですか、そんな形になっております。あの場所も以前は人工芝のゲートボール場でしたか、そんなことも入っておったんですけど、今は駐車場とか広場になっております。将来どんな形で利用していけばいいのか、皆さんとこれからも協議を重ねさせていただきたい、そんな思いでございますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 中村議員。

5番（中村 充男君） いずみさんのところですが、お言葉を返すようですが、私は週に1回ぐらいしかのぞいておりませんが、近所の方々に、いつも見ていただいていると、いや、来ておりませんと、そういう回答なんです。

ですから有効に活用するために、いずみさんが週1回使っておられるというのなら、交番の奥でも前でも使える。女子の消防団の方が使っておられるのは、いつ使われるか。年末の警戒ぐらいに使われるかわかりませんが、ガラスハウスにしましても、3年前から言って、言っても言ってもまだ使っていない。こういうふうに使ったらどうかと言っても、なかなかできない理由ばかり。

農業施設やから農業のものをと。私、木地ろくろのこういうものをどうかという話をしました時も、これは農業のものやないというけども、農林業とって、木の間伐材で皿や器や、いろんな飾り物を木地ろくろでつくって、そういうものも一緒にやったらいいのになと、こういうふうにも思っても、なかなか我田引水というか、そこに少し携わった人が人を取られるような気分になるのか、有効に使われない。

あそこをこういうグループで使いたい、貸してほしいという方がたくさんみえるので、求めてくる人たちにこたえるのが行政である、こういうふうにも思いますので、早急に一遍洗い直しをして、今年度まもなくで終わってしまいますので、来年度からは新たに、空いているところがないように。

もっと皆さんが笑顔で、温故知新と言いますが、温故創新で、古きをたずねて新しいものをつくり出していくという行政の力を出していただきたいと思いますので、どうぞ早急に議会が終わりましたら検討に入っていただきたいと思います。

検討という言葉はさっきから使われておりますが、検討というのは、業界の用語では検討して何もしないと、こういう結論になってくる、それが役所のおきてみたいなことが本に書いてありますけど、検討して前向きに一步でも二歩でも進めていただくということを、ひとつよろしくお願いをいたします。

それからこれは最後のお願いでございますが、これからさらなる東員町、三重県の発展のためにということで、我が郷土三重県に活気、そして我がまち東員町を笑顔あふれるまち、そして何かと潤すために、町長として、町長は今、三重県の町村会長をなさっておられるので、ぜひとも三重県より総理大臣を出してもらいたいと。

前回もこのことをチラッと申しましたが、どういうふうなことになっているのか、さっぱり承っただけということでございますが、先ほどチラッと触れましたけども、国会の論戦を見ておられますとも中身が全くない。いまや民主党や自民党やと言ってる時代やないと。民主党で固まり、自民党と民主党も仲よくなれといっても、35年間一緒に住んでいる嫁でもなかなか言うことを聞かなくて、毎日夫婦でけんかしているのに、何百人といふ人たちが仲よくなれるわけがないけれども、今、国家存亡の危機になっております。北から北方領土、ロシアが攻めてくる、南は中

国が尖閣諸島を攻めてくる。夫婦でけんかをしていても、強盗が来たら2人で力を合わせて追い出すのが夫婦やと思うんですよ。

民主党の中でも最近永田町には奇妙な解散風が吹いておりまして、解散すると。党内の反対勢力を抑えるために解散すると言っているような格好でございますけども、総理大臣に一番近い方が三重県に与党の幹事長でおられるので、私はこういうことを言うわけございまして、何も自民党でも民主党でもありません。東員町民党の中村充男でございますけども、今そんなことを言っている時期やないと。菅さんが1%になっても政権にしがみつくとというようなことをいって、1%になってから、岡田さんやってくださいと言ったって、引き受けるほうが、これまた引き受けないほうがいいんです。だけでも大同団結して、北方領土の島を取られてしまう、尖閣諸島を取られてしまう。日本は島国やと言っているのに島を取られてどうなるのやろうということですよ。

こんな小さなまちの町会議員ぐらいが大きなことを言うなと言われるかも知りませんが、たまたま三重県人として、国民として、町長が今、三重県の町村会長をなさっておられるというので、国道を早くしろとか、高速道路をしろ、それも大事かもしれないけれども、まず三重県から、この機会を逃すと、総理大臣ってなかなかチャンスがやってこないと思うんです。党派を超えて、一遍三重県として、地元郷土三重から総理大臣を出して、そして日本の国を治めていく。家庭が治まって、町が治まって、県が治まって、国が治まっていくのです。逆に言うと、国が治まらない限り、我々の幸せもない。

先般、金美齡さんがおみえになりました。その方もおっしゃってみえました。日本国籍がなかったらどんな惨めになるかということもおっしゃってみえました。私、20何年前に町会議員をやっている時に言ったんです。日本の国旗がなかったら撃ち落とされるかもしれない。そういうことを言った時に暫時休憩になってしまって、何を言っておるのやということをおっしゃっていただきましたけども、日本の国旗があり、国歌があって、我々があるのであって、衰退していった支持率もないような、後の総理大臣をやってくれと言っているのではないですか。民自、民主党も自民党も大同団結して、もう一回、政界再編したときには我が郷土から総理大臣を出して、これはなぜか。

岡田待望論、名前を言って申しわけないけれども、岡田待望論というのはいくらでもできるんです。県からこういうふうな風が吹き荒れる。例えばでございますが、小沢さんは幹事長としてこの際除名させていただくということをする、何かガバッと減るような感じがするけれども、その時に再編をして、一つとなって日本を守るといふ大きな夢に向かっていくために私は申し上げているのでありまして、一番近いところに一言声をかけたら、そうやなとみんなが言ってくれる町村会長をやっておられるので、この後、5カ月ぐらいの期限でございますけども、何回か町村会



の役員会があると思うんですね。その席で3回あったら3回ともどうなんやということで、長深のイオンタウン、これも少し手こずっております。こんな不景気というか、風では、なかなか開店にこぎつけるまでは大変だと思うんです。

そしてあそこに橋脚だけ、墓場の大きな石のように立っている。これも全部やっていくということが三重県の利益になる、そしてひいては国家の存亡の危機のために、ガチッと海外にもものを言える。はっきり民主党の与党の幹事長としてもものが言えるならば、ロシアも中国もやるなど、これはうかうかできんということで、海外にもすぐに影響が出ることでございます。

オーストラリアに行きましたけど、ジャスコ牧場という大きなものがある。海外にそうしたもので影響力がいっぱいある方でございます。これはもう日本を救うのはここしかないと私は思っているものですから、この場をおかりして力説しているわけですが、町長いかがですか。前回言ったときは、そのままなしのつぶてで、今回は何とか言っていただけそうかどうか、ご返答をお願いします。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） 三重県から総理をとということで、いろいろご指示をいただきました。総理を選ぶのは民主党員と国会議員でございますので、我々が選ぶ権利もございません。我々ができるのは、国会議員に送っていただくということでございますので、もし解散があれば、総選挙があれば、ぜひ今までのように優秀な成績で送っていただくのが総理に結びついていく、そう思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

町村会長という職でということでございますけども、こちらのほうもそうさせていただきますので、私に与えられた時間は、もう少しでございます。2月ごろに会長交代ということもあり得ると思っておりますので、一生懸命PRはさせていただきますけど、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 中村議員。

5番（中村 充男君） ちょっと受け取り方、ニュアンスが違うので、もっと県民に夢を与えてもらうような、選挙で入れてほしいぐらいのことでは風が起きてこないですね。もっと三重県を盛り上げて、美し国どうのこうのと、あれほどやってもそれだけのことなんです。もっと三重県からこんなチャンスはないやないかということで力強く言ってほしいのですが、わずかの期間やでということで、わずかの期間にできることを、もう一つではお願いします。

今、笹尾の東の入り口からずっと421号線の工事をしていますね。オレンジ色のネットが両側に張ってあります。安心・安全のまちと言っておられるのですが、何とか整形さんという病院の前にバス停がございます。そこでオレンジバスがどのようにバスのお客さんを、いなべ整形に行く方の乗り降りをさせているか、ご承知

でしょうか。あのまま道のまま置いて、足が悪いのであそこへ通っているのに、あそこで事故をしたら元も子もない。バスがもう少し寄って、安心・安全に乗降客が行けるように配慮した工事をするのが、本当は安心・安全のまちづくりではないですかね。

安心・安全と、かけ声だけはいいいけども中身はやってない。かけ声だけでいいのですと言っているのに、中身が1票入れてもらいたいような話では、大きな夢を持って三重県から総理を出そうというような風を起こすのに、一町会議員よりも三重県の町村会長が言った方がパワーが違いますし、うちわで仰いでいるのと扇風機で仰いでいるのとの違いより、もっとプロアーで仰ぐぐらいの力が違うわけですから、そのところを何とかお願いしたいということを言っているわけでございまして、これはひいては我々県民、国民の利益につながってくると確信を持って言ってるわけでございます。

特に今の安心・安全、わずかの期間ですが、もうすぐ明日の日からでも工事をやっているところに言って、オレンジバスが乗降客を安全に下ろせるような確保ができるかどうか、これも一遍ご返答ください。

議長（山本 陽一郎君） 水谷建設部長。

建設部長（水谷 史郎君） 先ほどのご質問で、ただいま421号線の歩道の工事に関するコミュニティーバスの安全対策、ご指摘を受けました。工事も始まったばかりでございますけども、オレンジバスの乗降について、特に医療機関でございますので、県もそうでございますけども、私どものほうも事情を把握して、県と業者に指示を早速していただくように対応を図りたいと思いますので、お願い申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 中村議員。

5番（中村 充男君） 見ておりますと、バスがそのままとまりまして、ずっと車が後ろへつながっていて、降りた人がネットとつえとがひっついておるような感じで歩いていかれるんですよ。ですからそういうのを一遍早急にひとつよろしくをお願いします。

町長にここ3年間、大変ご無礼を申し上げてきましたけれども、口に蜜ある者は腹に剣がある、口に辛子のある者は腹に入ると温まると、こう言いますので、ひとつ今までご無礼を申し上げましたのは辛子とっていただきたい。どうぞひとつご無礼をお許しいただきまして、私の質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。